

## あとがき

「古今集の花」「源氏物語の植」といってもぴんと来ない。なぜか「万葉集の花」「万葉の植物」といえば共感をよぶ。一三〇〇年以上経た今日ではこの花・この植物であるときめかねるものがある。そうしたものは、いくつかの名があげられている。昔と今とでは名の変っているものもある。又昔のままの名で呼ばれているものもある。それらの問題を投げかけ、又は紹介するために楽寿園内の一廓に「万葉の森」を作った。そしてなるべく判り易いと思われる歌を立て札で案内したが、わかりかねるものもあるとの訴えにこたえて、今回極めて簡単な解釈を行なって同好同学の士におわけしようとの意図で、「万葉植物歌・略解」を発行することにした。

万葉集の解釈には、学者それぞれの意見があるので、本書と違ったものがある場合には、二者択一の法をとっていただきたい。

万葉植物の前に立ったとき、これが一三〇〇年以上も前から生きついできたという逞しさを思っていたきたい。

本書をごらんになった方で、お気づきのことがあった折はぜひお聞かせ頂いて第二刷を出す場合により良いものを発刊できるよう御協力をお願いします。

昭和五十年三月十五日 三島市教育長 吉川静雄

## 楽寿園 万葉の森

### 万葉植物歌・略解

昭和50年4月1日 発行

監修 吉川静雄

発行 三島市公園課

印刷 大洋印刷